

3rd Circular 改定版

2022 年 11 月 1 日

オンライン開催 2022 年 11 月 19 日(土)～ 12 月 11 日(日)

第 24 回総合学術研究集会 in 大阪

新型コロナウイルス・気候危機下の科学と社会

—脱炭素・脱原発・脱貧困を求めて—

11 月～12 月は、皆さん誘い合わせて 24 総学へ

—焦眉の現代的課題に迫る 24 総学に参加して、科学と社会を論じよう—

11 月 19 日から始まる 24 総学がいよいよ目前に迫りました。JSA にとって 24 総学は今年最大の研究企画です。私たち実行委員会はこの 3rd サーキュラーで 24 総学のプログラムを公表し、市民を含む広範な人々に参加を呼びかけます。

メインテーマは「新型コロナウイルス・気候危機下の科学と社会」で、「脱炭素・脱原発・脱貧困」という副題を付けています。資本主義先進諸国の新自由主義政策が増幅した社会矛盾にコロナ禍とロシアによるウクライナ侵攻が追い打ちをかけ、市民が困難に喘いでいる時期に 24 総学は開催されます。上記テーマにはそうした困難の解決に科学の成果を生かし、市民とともに解決の方向を考えようという思いが込められています。

主な企画としては、まず戦争と平和、コロナウイルスおよび気候危機を扱う 3 つの特別報告。32 の分科会は多彩なテーマに分かれ、延べ 155 名の科学者、技術者、学生、市民などが発表します。

J S A の総学の魅力は、①科学の到達点として最新の知見を得られる、② J S A の支部や地区の研究企画と比べてもテーマの幅が広い、③普段は聞けない人の発表を聞ける、④市民を含む多様な階層の人たちと交流できるなどにあります。

今回もコロナ禍のため、やむを得ずオンラインで開催しますが、参加費無料、交通・宿泊費不要、時間が節約でき、自宅から気軽に参加できるなどの利点もあります。オンラインは初めてという人でも操作は意外と簡単ですし、実行委員会がサポートします。会員はもちろん、非会員の研究者や一般市民の方も歓迎します。皆さんお誘い合わせのうえ、ご参加下さい。

24 総学実行委員会事務局長 左近拓男（京都支部事務局長）

24 総学への参加のご案内

○参加申し込みは、10月はじめからJSAウェブページ (<http://www.jsa.gr.jp/>) でご案内します。JSAウェブページから24総学のページにすすみ、ウェブフォームに記入して参加登録をしていただきます。登録いただいた方に、オンライン参加の案内（Zoom接続情報等）を後日お送りします。

○全体会、分科会へのZoom接続情報は1週間前をメドにメールにてお送りします。
予稿集（オンライン版）も10月末日にダウンロード可能とする予定。

○分科会設置責任者には、運営手順説明と予行演習の機会の案内を別途お送りします。

○参加費は無料ですが、開催にはサーキュラー発行、Zoom契約、運営アルバイト等のための経費を要しており、寄付（一口1,000円）にご協力いただけると幸いです（目標総額25万円）。寄付の振込先：郵便振替、日本科学者会議、00180-8-86906

○24総学終了後に予稿集（冊子版）を作成し、1冊2,000円（予定）にて頒布します。
ご希望の方は、参加登録の際にお申し込みください（上記ウェブフォームに申し込み欄があります）。

全体会・分科会日程

月/日（日）	9:30～12:00	13:00～15:30	15:45～18:15	18:30～20:00
11/19（土）	A1	全体会1 (13:00-15:00)	全体会2 (15:15-17:45)	予備
11/20（日）	B3 B8	B8	B8	予備
11/21（月）			G4(15:10～)	
11/22（火）			C3(16:50～)	
11/23（水）	C1 E3	B1 D3	B1 D3	G5(19～)
11/25（金）			A4(16:50～)	
11/26（土）	F3	D2	D2	予備
11/27（日）	B9 C4	B2 B6 C4	B6	予備
11/28（月）			B5(16:50～)	
11/29（火）			C3(16:50～)	
12/3（土）	D1 G6	C2 G3	A3 E2	A3
12/4（日）	E1	B7 F1	F2	予備
12/10（土）	F4	D4 G1	D4	予備
12/11（日）	A2	A2	全体会3 (15:45～17:30)	予備

注：全体会1は、開会式と特別報告1、全体会2は特別報告2、全体会3は特別報告3と閉会式です。
全体会とA1は、大阪大学豊中キャンパスでハイブリッド開催、分科会は基本的にオンライン開催ですが、ハコで囲んだ分科会はハイブリッド開催です（会場は、24総学HPでお知らせします）。

特別報告 11 月 19 日(土)、12 月 11 日(日)開催**全体会 1. 11 月 19 日(土) 13:30~15:00****戦争と平和—核兵器の開発の歴史を中心に****下田 正(大阪大学名誉教授)****<特別報告者紹介>**

MR I という言葉が日常的に聞かれるが、正しくは NMR I (Nuclear Magnetic Resonance Imaging: 核磁気共鳴画像法) である。このような「核」という言葉を使わないようにしようとする風潮は、日本ではことさら顕著であるが、これでは核エネルギーや核兵器を理解しようとする意識が育ちににくい。小型で「使いやすい」核兵器が身近に大量に存在する今、「核抑止力」は意味をなさず、核戦争の危機はかつてないほど高まっている。本報告では、核エネルギーとは何かを基本から解説し、核兵器の仕組みと開発の歴史の概説を通じて、核兵器廃絶への決意を共有したい。

全体会 2. 11 月 19 日(土) 15:15~16:45**コロナウイルスと One Health****中川 敬介(岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科准教授)**

COVID-19 のパンデミックにより、コロナウイルスはヒトに悪さする病原体として認識されるようになったと思います。一方で、コロナウイルスは動物に感染症を引き起こす病原体として、古くから知られていました。本講演では、新型コロナウイルスを含めたコロナウイルスのヒトと動物との関わりをご紹介しますと思います。それを通じて、ヒトと動物の健康がいかに密接に関わっているか (One Health の考え方) を情報共有できたらと思います。

全体会 3. 12 月 11 日(日) 15:45~17:15**気候危機と人権—気候危機を回避するために****浅岡美恵(気候ネットワーク代表・弁護士)**

スモン、水俣病など公害訴訟に参加。1996 年から気候変動問題に取り組む。国際社会はパリ協定下で気温上昇を 1.5℃ に抑える努力を追求するとするも、既に 1.1℃ 上昇。気候危機は現実となっているが、世界の排出量はなお増加している。市民が政府や事業者に出排削減を求めて提訴し、世界では司法も危険な気候変動を人権侵害と認め、排出削減を迫っている。

分科会一覧

A 戦争のない平和な時代を拓く

- A 1 国際社会における平和と人権～ウクライナ侵攻が突きつける国際問題研究の新たな課題
- A 2 戦争と平和をめぐる科学者の社会的責任、市民との共同
- A 3 「ウクライナ侵略戦争」が起きて一改憲阻止の闘い方と戦争廃絶の方策を語ろう
- A 4 ロシアのウクライナ軍事侵攻—2022 年

B 地球環境の危機的状況の克服、原発問題の解決、防災・減災、災害復興

- B 1 気候危機に立ち向かう—自然エネルギーと省エネの社会に向けて
- B 2 再生可能エネルギーと健康・環境影響
- B 3 脱原発への課題と展望
- B 5 避難の権利—原発訴訟 2022 年
- B 6 公害・環境問題の現在
- B 7 大阪での公害・環境問題に取り組んできて
- B 8 リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流 (part6)
- B 9 災害分科会

C 人間らしい労働、暮らしを守る経済、地域社会の再生

- C 1 新型コロナウイルス感染症をめぐる現状と課題
- C 2 日本の食と農を考える
- C 3 オセアニア海洋文化とモンゴル遊牧文化から SDGs を考える
- C 4 労働者の権利擁護と全国一律の最低賃金の大幅引上げ

D 科学・技術の現状批判と課題

- D 1 自然科学の進展を俯瞰する
- D 2 科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 (part14)
- D 3 科学技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る (part15)
- D 4 加速する科学・技術の進展とその社会実装について考える

E 学術研究体制の危機と大学・研究機関、研究者の権利・社会的責任

- E 1 経済安保法と国際卓越研究大学法は、学問の自由と大学の自治に何をもたらすのか
- E 2 いま改めて研究者の権利・地位と倫理を考える
- E 3 持続可能な高等教育を考える

F 個人の尊厳、ジェンダー平等、多様性の尊重

- F 1 社会的ひきこもり・不登校
- F 2 社会的ひきこもり・不登校を語る (当事者、経験者歓迎)
- F 3 学校における学びの保障を考える
- F 4 現在の情勢をジェンダー視点から考える

G 市民社会、その他

- G 1 アメリカの現状と今後を考える
- G 3 市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望
- G 4 高校生と一緒に考える大阪の未来
- G 5 モンゴルにおける言葉と文化の 21 世紀
- G 6 転換期における抵抗運動の論理

分科会プログラム



A 戦争のない平和な時代を拓く

【A1】分科会：国際社会における平和と人権～ウクライナ侵攻が突きつける国際問題研究の新たな課題

設置責任者：小野 一（J S A国際部）

連絡先：hajime@cc.kogakuin.ac.jp

設置趣旨：2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻は重大事件だが、既成概念や理論に問い直しが迫られているのは、国際問題研究でも例外でない。J S A国際部では、「人権」や「紛争マネジメント」をキーワードに、会員諸氏とともに研究・討論ができる場を設けられないかと考えた。具体的には、次のようなテーマで報告・討論を行う。

- ・地域研究：ロシア・ウクライナ地域の地政学
- ・戦争および平和研究：戦時下でも守られるべき準則
- ・人権保障：難民および人道支援の諸問題
- ・平和倫理：パワーポリティクスと道義

11月19日 9:30～12:00：大阪大学豊中キャンパスでハイブリッド開催する。

座 長：小野一（国際部長・福井支部）

9:30～9:40 座長あいさつ・趣旨説明

9:40～10:10（1）藤本和貴夫（大阪支部）：ロシアのウクライナ軍事侵攻—この戦争をいかにして止めるか

10:10～10:40（2）嶋田一郎（宮城支部）：平和的手段によるロシアの軍事侵攻の終結はあり得るか／「ウクライナの戦闘の無条件即時停止」こそ可能な平和戦略

10:40～11:10（3）山本富士夫（福井支部）：ロシア軍による原発軍事テロの考察

11:10～11:40（4）乾康代（東京支部）：戦争と原発と植民地支配—ロシアのウクライナ侵略から見てきたもの

11:40～12:00 全体討論

【A2】分科会：戦争と平和をめぐる科学者の社会的責任、市民との共同

設置責任者：J S A平和問題研究委員会

連絡先：kameyama@agr.u-ryukyu.ac.jp（亀山統一）

設置趣旨：「戦争と平和」が日本社会の未来の大きな焦点になっている。政府与党は、ウクライナ問題をも理由に、自衛隊が米軍と一体となって先制攻撃をも行う国家防衛戦略を打ち

出している。安保法制、国家機密法、土地規制法、経済安全保障推進法を次々制定し、防衛費を劇的に増額し、たとえば、宇宙防衛に年2千億円をつぎ込む構想である。これに科学者・技術者、大学人、研究機関を動員し、日本の学術研究体制の軍事化を推進している。非核三原則の否定も公然と打ち出している。こうした軍事化の地域的な現れが沖縄から琉球列島全体そして九州へと拡張している米軍・自衛隊基地問題であり、台湾有事に米軍と自衛隊が軍事介入するとして中国と対峙する日米共同作戦の問題である。この状況の総合的な批判的検討をはかり、市民とともに押し返す科学者の活動が期待される。「ウクライナ侵略戦争」「辺野古など琉球列島・九州の基地問題と安全保障、地方自治」「領土問題」「変貌する自衛隊・米軍と平和運動」「核抑止・核戦争か核兵器禁止か」「広島・長崎・ビキニ被ばく」「学術研究体制の軍事動員」「戦争する国づくり、先制攻撃能力」そして「9条改憲の問題」といった個別の課題に取り組む方々がここに集って、認識と運動を総合化させる場としたい。

12月11日 9:30~12:00

座長：亀山 統一（J S A 平和問題研究委員会・琉球大学）

9:30~9:32 座長あいさつ

9:32~10:02（1）藤岡 惇（京都支部）：第3次世界大戦＝サイバー宇宙核戦争をどう阻止するか―核の先制不使用、攻撃型宇宙兵器の禁止、ウクライナの中立化、護憲日本という代案

10:03~10:33（2）濱田郁夫（太平洋核被災支援センター共同代表・高知支部）：ビキニ・太平洋核実験と市民認識

10:34~11:04（3）冨塚 明（長崎大学）：ロシアの核兵器近代化の現段階

11:05~11:35（4）井原 聡（東京支部）：経済安全保障「砲」が狙う平和の砦（大学等）―内閣府主導の軍事研究体制

11:36~12:00（5）志岐常正（京都支部）：軍事同盟一破局へと向うか、不戦・平和、人間生存の環境・条件を護るか

12月11日 13:00~15:30

座長：亀山 統一（J S A 平和問題研究委員会・琉球大学）

13:00~13:02 座長あいさつ

13:02~13:32（6）徳田博人（琉球大学）：地方自治の保障と地方分権改革（1999年）・国の関与の問題点―辺野古争訟にける国地方係争処理委員会の諸決定に着目して

13:32~13:57（7）前田定孝（三重大学）：毒性化学物質による環境汚染と日米地位協定

13:57~14:25（8）立石雅昭（新潟大学名誉教授・新潟支部）・沖縄辺野古調査団：辺野古新基地、無理・無謀な設計計画―耐震設計と軟弱地盤対策の不備

14:25~15:45（9）中川武夫（中京大学名誉教授・愛知支部）馬毛島アセスの軍事的問題

14:45~15:05（10）石山 潤（沖縄支部・元陸上自衛官）：防衛白書から日本の防衛政策における深刻な問題を考える

15:05~15:20（11）亀山統一（琉球大学）：琉球列島全体に広がる米軍・自衛隊基地問題

—「抑止力」論と向き合い「命どう宝」を次世代に伝える

15:20～15:30 討論・まとめ

【A3】分科会:「ウクライナ侵略戦争」が起きて——改憲阻止の闘い方と戦争廃絶の方策を語ろう

設置責任者:金子 勝、中野貞彦(東京支部)

連絡先:s.nakano@d012.dant2.jp(中野)

設置趣旨:ロシア連邦のプーチン政権による「ウクライナ侵略戦争」の実行(2022年2月24日)は、世界中の人々に大きな衝撃を与え、人類に、新型コロナウイルス・パンデミックを終息させる課題と並んで、戦争を廃絶する方策を考える課題を与えた。しかし、日本国では、新型コロナウイルス・日本パンデミックと「ウクライナ侵略戦争」を利用して、改憲による「戦争国家」作りの議論が台頭し、日本国憲法を「明文改憲」(自衛隊の明記・緊急事態条項創設など)と「解釈改憲」(核共有・敵基地攻撃能力・大軍拡などの容認)で廃棄しようとする運動が強まっている。そこで、改憲阻止の闘い方と戦争廃絶の方策を、みなさんと語り合いたいと考えている。

12月3日 15:45～18:15

座 長:金子 勝(東京支部立正大学分会)

15:45～15:50 座長あいさつ

15:50～16:15(1)中野貞彦(武蔵野通研分会):九条の原点を改めて考える—自衛権にとらわれた議論に抗して

16:15～16:40(2)田島 治(武蔵野憲法ゼミナール):憲法理念を活かすための市民の力量形成

16:40～17:05(3)二橋元長(埼玉県平和委員会代表理事):「武力によらない平和」への確信をどう広げるか

17:05～17:15 <休憩 10分>

17:15～17:40(4)野澤裕昭(自由法曹団東京支部、弁護士):核兵器禁止条約と憲法9条の連携

17:40～18:05(5)植野妙実子(中央大学名誉教授):憲法改正に関する問題点

18:05～18:15 <討論1 10分>

12月3日 18:30～20:00

座 長:中野貞彦(東京支部武蔵野通研分会)

18:30～18:55(6)岸 松江、青龍美和子(四谷姉妹、弁護士):憲法をもっとあなたに

18:55～19:20(7)金子 勝(立正大学分会):21世紀の「平和理論」と日本国憲法

19:20～19:55 <討論2 35分>

19:55～20:00 閉会あいさつ

【A4】分科会：ロシアのウクライナ軍事侵攻—2022 年**設置責任者：**今岡良子（大阪支部）**連絡先：**imaokaryoko2004@yahoo.co.jp**設置趣旨：**ロシアのウクライナ軍事侵攻について、5 月に平和のための集中講義を下記のとおり、大阪大学が開催した。

1. 藤本和貴夫、伊賀上菜穂：ロシア研究者から見たロシアのウクライナ軍事侵攻
2. 北泊謙太郎：戦争正当化の「論理」と実態—近代日本と現代ロシアの比較から—
3. 木戸衛一：「自由と民主主義」の二重基準
4. 長野八久：科学を戦争の道具とさせないために
5. 今岡良子：ウクライナ軍事侵攻に翻弄される人々

この集中講義を継承し、A 4 分科会を設置することにした。

11 月 25 日（金）16：50～18：20**座 長：**今岡良子、北泊謙太郎**報告者：**藤本和貴夫「ロシアのウクライナ軍事侵攻—2022」

この分科会は、大阪大学共通教育科目「平和研究入門」（担当：木戸衛一、北泊謙太郎）の時間に行う。報告の内容は、予稿をご覧ください。

報告の後、授業を履修している学生や市民、この分科会に申し込んだ JSA 会員らでディスカッションを行います。

11 月 1 日以降、事前資料として 5 月の集中講義の動画の一部の配信を開始します。希望者には、URL を E メールで送ります。hitsujinowakusei@gmail.ne.jp にご連絡ください。

最新情報は、総学の資料置き場か、大阪支部の

twitter <https://twitter.com/JSAosaka>、facebook <https://www.facebook.com/jsaosk>、ホームページ <https://jsaosaka.jimdofree.com/> を確認してください。**B 地球環境の危機的状況の克服、原発問題の解決、防災・減災、災害復興****【B1】分科会：気候危機に立ち向かう—自然エネルギーと省エネの社会に向けて****設置責任者：**河野 仁（大阪支部）**連絡先：**koyubi@sensyu.ne.jp**設置趣旨：**気候危機は待ったなしである。IPCC の新報告では、気候変動の悪影響を小さく抑える気温上昇 1.5 度抑制には世界の CO₂ 排出量を 2030 年に 2019 年比約半減、2050 年頃排出ゼロが必要、先進国日本は 2030 年にもっと大きな削減が必要である。原発はさらにリスクが明らかになり、また新技術依存ではこの 10 年の対策に間に合わない。石炭をまず減らし省エネ・再エネ抜本強化の必要がある。対策、対策ロードマップおよび対策を進める

政策などの課題を整理し、方針を研究することを目的として分科会を立ち上げる。

11月23日 13:00~18:30

座長：河野 仁（今中政輝）

13:00~13:10 座長あいさつ

13:10~13:50（1）後藤隆雄（元神戸大学・兵庫支部）：過去2万年の人類気候文明史への解明と、人類生き残りの対策考察

13:50~14:30（2）歌川 学（産業技術総合研究所）：地域の脱炭素社会への転換

14:30~15:10（3）河野 仁（元兵庫県立大学・大阪支部・JSA-ACT）：日本における自然エネルギーの利用—ケーススタディから見えるもの

15:10~15:25 <休憩>

15:25~16:05（4）今中政輝（東京大学・名古屋大学）・志村征輝・加藤丈佳（名古屋大学）：将来の太陽光発電導入量の市区町村・配電エリアへの配分

16:05~16:45（5）佐藤忠久（元長岡技術科学大学・東京支部）：アンモニア燃焼発電の問題点—環境有害物質である窒素酸化物排出に関する考察—

16:45~17:45（6）Kenji Stefan Suzuki（「風のがっこう」主宰・SRA Denmark）：気候危機に立ち向かうデンマークの気候変動対策について

17:45~17:50 <休憩>

17:50~18:30 全体討論

【B2】分科会：再生可能エネルギーと健康・環境影響

設置責任者：加藤やすこ（北海道支部）

連絡先：voc-emf@mbn.nifty.com

設置趣旨：地球温暖化を防ぐため、大規模な風力発電や太陽光発電の導入が各地で進んでいるが、風車から発生する超低周波音・低周波音・騒音による、睡眠障害などの健康影響が報告され、太陽光発電所の設置に伴う大規模な森林破壊によって、土石流の発生も懸念されている。そのため、景観破壊や健康被害を懸念する地域住民による反対運動が頻発している。これらの状況を含めて、再生可能エネルギー導入によって健康や環境にどのような影響が発生しうるのか、また、地域住民との合意形成や情報公開のあり方などを検討する。

11月27日 13:00~15:30

座長：加藤やすこ（北海道支部）

13:00~13:05 座長あいさつ

13:05~13:25（1）小林芳正（京都支部）：低周波音被害の歴史 in 2022

13:25~13:45（2）山田大邦（北海道支部）：風車低周波音の高次倍音構造と健康被害

13:45~14:05（3）市川守弘（北海道支部）：国有林保全と風車建設

14:05~14:25（4）佐々木憲雄・斎藤浄（由利本荘・にかほ市の風力発電を考える会）：既存の風車による健康被害について

14:25~14:45 (5) 加藤やすこ (北海道支部) : 風力発電と太陽光発電の電磁波問題

14:45~15:05 (6) 石川直太 (メガソーラーを考える奈良の会) : 奈良県における平群、山添のメガソーラー発電の問題

15:05~15:25 全体討論

15:25~15:30 座長まとめ

【B3】分科会: 脱原発への課題と展望

設置責任者: 岩井 孝 (原子力問題研究委員会・茨城支部)

連絡先: kp777333@tg8.so-net.ne.jp

設置趣旨: 福島第一原発事故から 11 年を経過するが、新規制基準に合格しても重大事故の可能性を残しながら原発の再稼動が進められている。しかし、科学的検討や避難計画不備などを理由とする国民の批判も強く、脱原発に向かう機運も高まっている。脱原発へ向けた課題と展望を幅広い観点で討論する。

11 月 20 日 9:30~12:00

座 長: 岩井 孝 (茨城支部)

9:30~9:35 座長あいさつ

9:35~9:55 (1) 草野清信 (宮城支部) : 福島第一原発由来の放射能の強度比 ($^{134}\text{Cs}/^{137}\text{Cs}$) は、どのように分布しているか (1)

9:55~10:15 (2) 小林昭三 (新潟支部) : 柏崎刈羽原発再稼動問題をめぐる虚妄をあばく

10:15~10:35 (3) 本間照光 (東京支部) : 核燃料サイクルをめぐる国際・国内関係〜海洋放出・核のごみ問題を中心に〜

10:35~10:55 (4) 山本雅彦 (福井支部) : 老朽原発の中で、最初に動かそうとしている美浜 3 号機の現状

10:55~11:00 <休憩>

11:00~11:20 (5) 花島 進 (茨城支部) : 稀なことをどう扱うか、どう備えるか

11:20~11:40 (6) 館野 淳 (東京支部) : 世界の核兵器・核ドクトリン

10:40~12:00 (7) 山本富士夫 (福井支部) 衛星による原発サイバーテロを阻止するために

【B5】分科会: 避難の権利—原発訴訟 2022 年

設置責任者: 今岡良子 (大阪支部)

連絡先: imaokaryoko2004@yahoo.co.jp

設置趣旨: ロシアによるウクライナ軍事侵攻は、戦時の原発の存在と危険性を改めて見せつけ、また、故郷を追われる数百万の市民を生み出した。今一度、福島原発の問題に立ち返って、大阪に避難し、訴訟闘争の活動を続けている市民と共に考える。

森松明希子さんとは、福島県郡山市在住中に東日本大震災に被災。当時 3 歳 1 か月と 0 歳 5 か月の 2 児を連れて 1 か月の避難所暮らしを経て、2011 年 5 月から大阪市へ母子避難。原発賠償関西訴訟原告団代表。

これまでの森松明希子さんの活動をわかりやすくまとめた動画を事前に配信する。

当日オンラインで、登壇者のリレー形式の報告と討論を行う。

11 月 28 日 16:50~18:20

座 長:

大阪大学外国語学部中国語専攻「中国社会演習 Ib」、人文学研究科外国学専攻「アジア社会動態論 IIB」担当 深尾葉子

11 月 28 日のテーマ「避難の権利—原発訴訟 2022 年」の責任者 今岡良子

報告者 森松明希子さん他：避難の権利—原発訴訟 2022 年—原発からの命の守り方

報告者がプレゼンテーションをし、この授業を履修する 3 年生以上の学生と院生（留学生）、市民、J S A 会員でディスカッションを行う。

授業の履修者の確定は、10 月 2 週目となります（毎年 20 人以上の履修者がいますので、履修学生ゼロということにはならないと思います）。

箕面キャンパス（箕面市新船場）で行われる授業ですが、教室の確定は、9 月末になります。オンラインでの参加も可能です。

11 月 1 日以降、事前資料として 4 本の動画配信を開始します。希望者には、URL を E メールで送ります。hitsujinowakusei@ymail.ne.jp にご連絡ください。

最新情報は、大阪支部の

twitter <https://twitter.com/JSAosaka>、

facebook <https://www.facebook.com/jsaosk>、

ホームページ <https://jsaosaka.jimdofree.com/> でお知らせします。

【B6】分科会：公害・環境問題の現在

設置責任者：畑 明郎（滋賀支部）

連絡先：hata.akio@gaia.eonet.ne.jp

設置趣旨：本分科会は、各報告を通じて、国内外の公害・環境問題についての、自然科学的・社会科学的な現状報告を行うことで、今後、日本科学者会議として取り組むべき課題を提示することを目的に設置する。各地域での公害・環境問題の現状と課題を討論する。

11 月 27 日 13:00~18:15

座 長：畑 明郎（元大阪市立大学・滋賀支部）

13:00~13:05 座長あいさつ

13:05~13:25 (1) 畑 明郎（元大阪市立大学・滋賀支部）：イタイイタイ病発生源対策 50 年史

13:25~13:45 (2) 萩野直路（新潟水俣病を支援する会）：水俣病は中毒事件、水俣病に

- 見られる感覚障害で診断できる—最近の裁判では、科学的事実を無視した判決が出ている
- 13:45~14:05 (3) 藤原寿和 (日台油症情報センター) : 日本・台湾における油症事件と PCB、ダイオキシン汚染
- 14:05~14:15 <休憩>
- 14:15~14:35 (4) 津田敏秀 (岡山大学・環境生命科学研究科) : 水俣病に学ぶ福島甲状腺がんの因果関係—19 世紀の医学が公害問題の解決を遅らせる—
- 14:35~14:55 (5) 後藤隆雄 (元神戸大学・兵庫支部) : 大都市幹線道路沿道は、今も生存が弱者には危険な状態である
- 14:55~15:15 (6) 中川武夫 (中京大学名誉教授・愛知支部) : 馬毛島アセスの問題
- 15:15~15:30 中間討論
- 15:30~15:45 <休憩>
- 15:45~16:05 (7) 畑 明郎 (元大阪市立大学・滋賀支部) : 危険! 建設残土
- 16:05~16:25 (8) 杉本裕明 (ジャーナリスト) : 残土処分と有効利用の境界線の曖昧さについて事例考察—三重県伊賀市の農地回復事業について—
- 16:25~16:45 (9) 山田利春 (しがの里山と川を美しくする会) : 滋賀県大津市北部の自然環境・生活環境の現状その 2 : 裁判闘争
- 16:45~16:55 <休憩>
- 16:55~17:15 (10) 木村健一郎 (杉並大気汚染測定連絡会) : 光化学オキシダントと自己免疫系疾患
- 17:15~17:35 (11) 横畑泰志 (富山大学・富山支部) : 富山県内における自然保護運動と行政の関係の変化
- 17:35~17:55 (12) 栗生田忠雄 (新潟大学・新潟支部) : 香害という公害を考える
- 17:55~18:15 総合討論

【B7】分科会:大阪での公害・環境問題に取り組んできて

設置責任者: 久志本俊弘 (大阪支部)

連絡先: to4ksmt@yahoo.co.jp (久志本俊弘)

設置趣旨: 大阪での公害と環境問題の取り組みを考える。特に大阪から公害をなくす会が 50 年を超える取り組みを継続している。大阪支部も同じく 50 年を超える活動し、その中の重要な柱に「科学を市民の中に」という考えで、この公害と環境問題の分野において、科学者・専門家の果たした役割や教訓について振り返り、それを若手に伝えて、今後のあり方を考える。

12 月 4 日 13:00~15:30

座 長: 久志本俊弘 (大阪支部)

13:00~13:10 座長あいさつ

13:10~13:20 (1) 青山政利 (大阪支部) : 公害・環境問題に対する大阪支部の取り組み

13:20~13:30 (2) 藤永のぶよ (大阪支部・おおさ市民ネットワーク) : 『市民運動に科学を

…』～大阪における市民運動に科学者の果たしてきた大きな役割～

13:30～13:40 (3) 長野晃(大阪支部)：大阪から公害をなくす会(住民運動)と科学者が果たした役割、大阪における経験から

13:40～15:30 全体討論

各報告者に約 30 分から 1 時間程度の報告またはインタビューの録画を撮り、その中で多くの詳細資料を残し、事前または事後に視聴できるようにします。当日は、3 人から簡単な報告を受け、その後の討論時間を多くし、参加者からも多くの発言を得て本課題を深めたい。

【B8】分科会：リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流(part6)

設置責任者：長田好弘、松永光司、橋本良仁(東京支部)

連絡先：matsunaga_mitsushi@hotmail.com

設置趣旨：日本科学者会議は「リニア中央新幹線計画の撤回・中止を求める声明」(2014.7.15)において、リニア計画に関する態度を旗幟鮮明にし、あわせて地域住民の具体的要求の解決を最優先とし、計画の撤回・中止への発展を展望し、地域と連帯した諸活動を追求してきた。この間、山梨県南アルプス市、東京太田区、静岡県内区間のトンネル工事差し止め訴訟が相次ぎ、東京外環道工事での道路陥没被害、熱海の土石流災害の発生、2021 年 6 月静岡県知事選挙での「リニアより水を」を掲げた川勝氏の圧勝など、リニア新幹線工事計画環境は大きな変化が生じ、朝日新聞社が「JR 東海と国交省はいったん立ち止まって事業の是非を再検討し、地元と真摯に対話すること」(社説 2021.7.5)と主張するなど、メディアでもリニア計画への疑問視が次第に広がっている。地域と連帯した諸運動が「計画の撤回と中止」を求める運動に大きく合流する研究集会にしたい。

<午前の部>

11 月 20 日 9:30～12:00

座 長：橋本良仁(東京支部)

9:30～9:40 座長あいさつ

9:40～10:10 (1) 長田好弘(リニア中央新幹線問題研究連絡委員会代表)：中央新幹線問題の現状と課題―開会挨拶と分科会設置趣旨説明をかねて

10:10～10:40 (2) 桜井 徹(国土舘大学経営研究所特別研究員・日本大学名誉教授)：新型コロナウイルス禍による J R 東海の経営悪化とリニア中央新幹線建設工事費の財源問題―「国策民営」の矛盾の露呈

10:40～10:50 <休憩 10 分>

10:50～11:20 (3) 大塚正幸(東京支部)：リニア新幹線建設の問題点と運行の安全を問う

11:20～11:50 (4) 松永光司(東京支部武蔵野通研分会)：リニア中央新幹線の地上コイルの耐久性、保守性について

<午後の部>

11月20日 13:00～17:40

座 長：松永光司（東京支部武蔵野通研分会）

13:00～13:30（5）三木一彦〈リニアから住環境を守る田園調布住民の会代表・田園調布リニア工事差止め訴訟原告団長〉：大深度地下使用法による人権蹂躪を許さない―田園調布リニア工事差止め訴訟

13:30～14:00（6）林 克（リニア新幹線を考える静岡県民ネットワーク）：静岡県のリニア議論の到達点―JR東海では水と環境を守れない

14:00～14:10 <休憩 10分>

14:10～14:40（7）中川武夫（中京大学名誉教授・愛知支部）：リニア中央新幹線 説明会の問題（経過、手続き、内容）

14:40～15:10（8）庄司善哉（秋田大学名誉教授・岐阜支部）、坂本 満（日本技術士会会員・岐阜支部）：中津川市におけるリニア中央新幹線トンネル工事中に生じた事故

15:10～15:30 <休憩 20分>

15:30～16:00（9）前田定孝（三重支部）：行政文書は語る。三重県内の自治体の動きと住民の運動

16:00～16:30（10）川村晃生（ストップ・リニア！訴訟原告団長・慶応義塾大学名誉教授）：リニア新幹線の現状と課題

16:30～17:00（11）関島保雄（ストップ・リニア！訴訟原告弁護団共同代表・弁護士）：リニア新幹線工事計画認可取消請求訴訟の現状と課題

17:00～17:10 <休憩 10分>

17:10～17:40 総合討論

【B9】分科会:災害分科会

設置責任者：中山俊雄、川合将文（東京支部）

連絡先:otto.nakaya@gmail.com

設置趣旨： 地震活動期のなか、温暖化による異常気象が相次いで起きている。23総学では「南海トラフ巨大地震への備え」と題した分科会を設置したが、引き続き南海トラフ巨大地震、首都圏直下地震および異常気象に伴う災害を取り上げ、減災の取り組み、さらに災害論について議論したい（内容が多岐にわたるので、研究集会までに、焦点を絞り込みたい）。

11月27日 9:30～12:00

座 長：中山 俊雄（東京支部）

9:30～9:40 座長あいさつ

9:40～10:10（1）土屋光圀（中央大学理工学研究所）：気候危機!!「総合治水」から「流域治水」が求められる国土の課題

10:10～10:40（2）奥西一夫（京都支部）：基本高水に固執する治水政策からの脱却―温暖化を機会として―

10:40~10:50 <休憩>

10:50~11:20 (3) 嶋田一郎(宮城支部): 復興概念の明確化から「復興権」の展開へー
東日本大震災復興支援活動11年の実践の教訓

11:20~11:50 (4) 志岐常正(京都支部): 世界の戦争と平和の危機に日本の災害を思う

11:50~12:00 全体討論 座長まとめ

C 人間らしい労働、暮らしを守る経済、地域社会の再生

【C1】分科会: 新型コロナウイルス感染症をめぐる現状と課題

設置責任者: 椎名貴彦(岐阜支部・新型コロナウイルス感染症研究委員会)

連絡先: tshiina@gifu-u.ac.jp

設置趣旨: 新型コロナウイルス感染症は人類史に残る災禍をもたらしている。発生から2年以上経った現在においても、収束には至っておらず、一般市民の生活も種々の制限を受けたままである。本分科会では、新型コロナウイルス感染症に関連する医学・生物学的研究はもちろん、工学、教育学、経済学、社会学など多様な学問分野からの研究報告を行い、新型コロナウイルス感染症をめぐる現状と課題を明らかにしたい。

11月23日 9:30~12:00

座長: 椎名貴彦(岐阜大学)

9:30~10:15 (1) 河野 仁(大阪支部): 会話中の呼気液滴質量の統計データ解析および拡散モデルを使用した SARS-CoV-2 数濃度の予測

10:15~10:45 (2) 出口幹郎(大阪支部関西技術者研究者懇談会): 新型コロナウイルスの感染に関わる大阪府と神奈川県と比較

10:45~10:55 <休憩>

10:55~11:25 (3) 西川榮一(兵庫支部): COVID-19 確認感染者数データ分析からまん延対策について考える

11:25~11:55 (4) 水戸部秀利(宮城支部): ポストコロナを考える(リスクの最小化を兼ね備えた、社会システム転換を)

11:55~12:00 まとめ

【C2】分科会: 日本の食と農を考える

設置責任者: 西村一郎(東京支部)

連絡先: info@nishimuraichirou.com

設置趣旨: 異常気象やウクライナの問題などもあり、日本も食糧危機に直面しつつある。戦後のアメリカ国益最優先の政策により大きく歪められてきた我が国の食と農は、国民の生活や健康に悪影響を今も及ぼし、食料安全保障がこれまでにない問われている。

こうした中において国民の目線で日本の食と農の在り方を考える。

12月3日 13:00~15:30

座 長：西村一郎（食糧問題研究委員会）

13：00～13：05 座長あいさつ

13：05～13：30（1）原 英二（日本消費者連盟）：食品表示の現状と課題

13：30～13：55（2）吉森弘子（「たねと食とひと@フォーラム」共同代表）：種子法廃止後のたねのゆくえ—都道府県アンケート調査より

13：55～14：20（3）真鍋和裕（株式会社関東農産研究開発部長）：化学肥料高騰から見た今後の農業

14：20～14：25 <休憩>

14：25～14：50（4）粟生田忠雄（新潟支部）：有機農業推進のための現状と課題

14：50～15：15（5）西村一郎（食糧問題研究委員会）：生協産直を考える

15：15～15：30 全体討論

【C3】分科会：オセアニア海洋文化とモンゴル遊牧文化からSDGsを考える

設置責任者：今岡良子（大阪支部）

連絡先：imaokaryoko2004@yahoo.co.jp

設置趣旨：小杉世（大阪大学人文学研究科）は、太平洋の核軍事化と先住民共同体—キリバス共和国クリスマス島を中心に—、今岡良子は、豊かなゴビは遊牧社会の持続可能な発展の拠点である—なぜ、ゴビ地域に核関連施設を設置するのか—をテーマに報告し、討論する。平日の夜、1週目、小杉世、2週目、今岡良子が報告し、3週目に討論をする。

11月22日（火）、11月29日（火）16：50～18：20

座 長：

大阪大学共通教育科目「遊牧民の文化と社会を知る」担当、**今岡良子**

11月22日と29日のテーマ「オセアニア海洋文化とモンゴル遊牧文化からSDGsを考える」の責任者 今岡良子

11月22日「豊かなゴビは遊牧社会の持続可能な発展の拠点である—なぜ、ゴビ地域に核関連施設を設置するのか—」 報告者 今岡良子（大阪大学人文学研究科）

11月29日「太平洋の核軍事化と先住民共同体—キリバス共和国クリスマス島を中心に—」 報告者：小杉 世（大阪大学人文学研究科）

報告者がプレゼンテーションをし、この授業を履修する学部1年生、市民、JSA会員でディスカッションを行う。

授業の履修者の確定は、10月2週目となります（さまざまな学部から毎年履修する学生が15人から20人の授業です）。

豊中キャンパスの共通教育棟で行われる授業ですが、教室の確定は、9月末になります。オンラインでの参加も可能です。

最新情報は、大阪支部の

twitter <https://twitter.com/JSAosaka>、

facebook <https://www.facebook.com/jsaosk>、

ホームページ <https://jsaosaka.jimdofree.com/> でお知らせします。

【C4】分科会：労働者の権利擁護と全国一律の最低賃金の大幅引き上げ

設置責任者：米田 貢（東京支部）

連絡先：myoneda330@gmail.com

設置趣旨：新自由主義的経済運営の基本戦略として労働力の流動化政策が推進された結果、日本では2千万人の不安定雇用・低賃金の非正規雇用労働者が生み出され、その結果、正規雇用労働者も含めた名目平均賃金水準はこの20年低迷し続けている。先進国の中でも例を見ない日本の国民経済の長期停滞は、大企業・グローバル企業が賃金を切り下げすぎた結果である。全労連の聞き取り調査によれば若年の単身者の必要最低生計費は都市部・地方を問わず月額22万円～24万円水準である。長期的な国民経済の停滞だけでなく、地方から大都市部への若年労働者の流入による地方経済の衰退を打破するためにも、全国一律の最低賃金の大幅引き上げが求められている。本分科会では、普通に働けば普通の生活ができる社会の実現に向けて、本来の賃金水準はどうあるべきかを、研究者、労働者、市民が共同して議論を行う。

11月27日 第1部 9:30～12:00

座長：米田 貢（労研代表世話人・中央大学名誉教授）

9:30～9:35 座長あいさつ

9:35～10:15（1）黒田兼一（明治大学名誉教授）：いま最低賃金制度の大手術が求められている

10:15～10:55（2）福島利夫（専修大学名誉教授）：最低賃金制の可視化が意味するものは何か

10:55～11:00 <休憩>

11:00～11:40（3）横溝幸徳（一般社団法人大阪自治体問題研究所）：再投資されない利潤による経済循環の阻害と労働政策

11:40～12:00 全体討論

12:00～13:00 <昼食休憩>

11月27日 第2部 13:00～15:30

座長：工藤芳弘（労研代表世話人・元東京都教職員組合委員長）

13:00～13:05 座長あいさつ

13:05～13:45（4）中澤秀一（静岡県立大学短期学部准教授）：最賃全国一律1,500円の根拠・意義・展望—最低生活費調査が運動にもたらした成果

13:45～14:25（5）梶 哲宏（全労連・全国一般本部副委員長）：最賃「法改正」と中小企業政策

14:25～14:30 <休憩>

14:30～15:10 (6) 嘉満智子(大阪労連事務局長):大阪における最低賃金引き上げ
のとりくみと課題

15:10～15:30 全体討論

D 科学・技術の現状批判と課題

【D1】分科会：自然科学の進展を俯瞰する

設置責任者: 青木和光(東京支部)

連絡先: aoki.wako@gmail.com

設置趣旨:自然科学の各分野で著しい進展がある一方、専門化が進んでいるため、科学者の中で必ずしもそれを共有しにくい状況があるのではないだろうか。専門の異なる研究者が集まる日本科学者会議の特色を生かし、各分野での進展を研究者個人の視点で見つめ直し、それを交流することで自然科学の潮流をつかむことを目標にする。分科会では、3人の全く専門の異なる講師からそれぞれの分野での顕著な進展とその特徴や背景を報告してもらい、参加者にも各分野が激変し、それが今後の研究活動にどう影響していくのか、という課題も議論したいと考えている。気楽に参加いただき、活発に質疑応答・討論いただくことを期待している。

12月3日 9:30～11:50

座 長: 青木和光(東京支部/国立天文台)

9:30～9:40 座長あいさつ

9:40～10:20 (1) 徳田 誠(佐賀大学):植物と昆虫の相互作用系からみた生物多様性研究の重要性と課題

10:20～11:00 (2) 長島雅裕(文教大学):銀河はどのようにして生まれ進化してきたのか

11:00～11:05 <休憩>

11:05～11:45 (3) 尾崎宏和(東京農工大学):六価クロムによる江戸川区周辺の地盤汚染を中心とした環境化学研究

11:45～11:50 座長まとめ

【D2】分科会：科学技術の現状批判

—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part14—

設置責任者: 久志本俊弘(大阪支部)、栗野 宏(山形支部)、矢作英夫(東京支部)(いずれも J S A 民間技術者研究者問題委員会)

連絡先: to4ksmt@yahoo.co.jp(久志本)

設置趣旨:日本の社会や企業における科学・技術の現状は、多くの重大な問題点を内在してい

る。地球規模では、気候危機やプラスチック汚染及び有害化学物質等の環境汚染への対応は先進国の中で大幅に遅れ、一部では逆行の姿勢ですらある。また、衰退産業とも言われる原発も、延命と維持に固執し、再エネ推進でも抑制的と言わざるを得ない。医療体制（研究を含む）弱体化と公衆衛生の後退の中、「科学的知見を無視」した政策で、この間のコロナ・パンデミックでは多くの悲劇的状況なども見られた。「デジタル化」でも、この危機に乗じて「個人情報保護」のないまま一気にすすめつつある。日本を代表する大企業での品質偽装・技術面の不祥事も多発している。これら現社会の内在する諸問題を「見える化」させるために調査し、さまざまな角度・視点から科学技術の現状批判と交流を深めたい。

11月26日 13:00～17:00

座長：久志本俊弘(大阪支部)

13:00～13:05 座長あいさつ 分科会提案の狙い

13:05～13:35 (1) 野村康秀(科学・技術政策委員会、東京支部特許庁分会)：科学技術関係予算の動向と科学技術政策の急速な変質

13:35～14:05 (2) 矢作英夫(東京支部)：携帯大手の大規模通信障害—生活と経済のインフラを守るため

14:05～14:15 <休憩>

14:15～14:45 (3) 小滝豊美(国公立試験研究機関問題委員会／茨城支部)：独立行政法人制度とその運用に由来する国立研究開発法人の機能不全の解消に向けて

14:45～15:15 (4) 出口幹郎(大阪支部)：全会一致で可決された「沖縄戦戦没者の遺骨に関わる請願」(51歳離れた大学生と元技術者の取り組み)

15:15～15:45 <休憩>

座 長：、矢作英夫(東京支部)

15:45～16:15 (5) 久志本俊弘(大阪支部)：住民によるNO₂測定調査結果(ソラダス2021)と比較して—環境省「環境健康サーベイランス調査」の問題点の指摘

座 長：久志本俊弘(大阪支部)、矢作英夫(東京支部)

16:15～17:00 全体討論

【D3】分科会：科学技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part15—

設置責任者：長田好弘、松永光司(東京支部)

連絡先：matsunaga_mitsushi@hotmail.com

設置趣旨：ロシアによる国連憲章違反、国際人道法違反のウクライナ侵略という世界の危機的状況に乗じて、自公政権は、「敵基地攻撃能力」の保持や「核共有」、憲法9条改憲などを声高に主張し、さらに今年5月「経済安全保障法」を成立させて、仮想敵を前提とした安全保障戦略に企業活動や研究開発を組み込もうとしており、研究開発の軍事化、民間企業や大学等への監視や介入が危惧されている。すでに国内では新型コロナパンデミックのもとで日本社会の諸矛盾、歴代自公政権の失政があらわになっている。こうした今、国民は研究者

に何を求めているのだろうか。パンデミックによる当面の痛苦の軽減と安寧な生活への方途を科学的知識に基づいて共に求めることであり、また「軍事対軍事」の破滅への道ではなく、日本国憲法に基軸を置いた科学の正しい発展の追求であり、そのための民衆と科学者・研究者の連帯でなければならない。個々の問題で意見の相違が生じようとも、リスペクトをもって率直な意見交換を行う。

11月23日 13:00～16:30

座長：松永光司（分科会設置責任者、東京支部）

13:00～13:10 座長あいさつ

13:10～13:40（1）長田好弘（分科会設置責任者）：科学者コミュニティからの研究インテグリティに関する論点整理ー日本学術会議はこれまでの立場を変えたのか

13:40～14:10（2）兵藤友博（立命館大学）：学術研究の発展に結びつく「科学技術政策」と何かー歴史的な社会過程が生活過程の成立を危うくしては、まっとうな学術は成立しえないー

14:20～14:50（3）小金澤鋼一（東海大学）：日本の軍事力強化の方針とその危険性

14:50～15:20（4）増澤誠一（東京支部、特許庁分会）：変わる知的財産事情2022

15:20～15:30 <休憩 10分>

15:30～16:00（5）松永光司（東京支部、武蔵野通研分会）：「デジタル改革」の現状と問題点

16:00～16:30 総合討論

【D4】分科会：加速する科学・技術の進展とその社会実装について考える

設置責任者：小早川義尚（福岡支部）

連絡先：kobayakawa_fmy@me.com

設置趣旨：この分科会では、

- 地球温暖化・気候危機に対応する「科学・技術」として原発の利用（小型反応炉などの技術開発・実用化）を唱える声、
- 商業目的の安易な遺伝子操作技術（とりわけ近年注目されているゲノム編集技術）を利用した商業目的の拙速とも思われる遺伝子改変生物の作成に学官民を巻き込んだ取り組み、
- 保険適用が始まった「人工生殖（不妊治療）」・先端生殖関連医療技術（着床前遺伝診断等）の抱える問題、
- DX、AI、5Gというコンピュータ・情報関連技術を軍事利用する動きの加速、また、教育の場を始め私たちの生活の場にそれを安易に取り入れようとする動き等、先端技術の社会実装に於ける問題点を考えると同時に、
- IPCCによるコンピュータシミュレーション技術の進展を活用しての地球環境問題への問題提起と行動指針の提示、
- 遺伝子操作技術の進展を利用した迅速なワクチン開発、
- 太陽光・風力・地熱発電などのいわゆる再生可能エネルギーの利用技術の進展等の、先端技術の社会実装・活用をどう地球上の人類を含む生命の共生の維持に活用するかという問題を考えたい。

なお、この分科会の設置は、九州沖縄地区シンポジウムが総会の開催時期と重なるため、2022年の九州沖縄地区シンポジウム担当支部である福岡支部が「2022年の九州沖縄地区シ

ンポジウム」を代替するものとして設置を申請している。

12月10日 13:00～18:15

座 長：小早川義尚（九州大学名誉教授・福岡支部）

13:00～13:10 分科会趣旨説明

13:10～13:55（1）小早川義尚（九州大学名誉教授・福岡支部）：生活の場に入り込むゲノム編集

13:55～14:40（2）伊佐智子（久留米大学）：日本における人工生殖技術の実状とその社会的意義—公平な評価の必要性と本来の少子問題解決策は何か—

14:40～15:25（3）二宮 清（公益社団法人福岡医療団千鳥橋病院、感染症専門医指導医）：日本におけるコロナワクチン接種の問題点を考える

15:25～15:40 <休憩>

15:40～16:25（4）伊藤久徳（九州大学名誉教授）：気候予測の進展とIPCC評価報告書への結実

16:25～17:10（5）岡本良治（九州工業大学名誉教授）：原子力発電は正当に社会実装されている技術か

17:10～18:00 全体討論

E 学術研究体制の危機と大学・研究機関、研究者の権利・社会的責任

【E1】分科会：経済安保法と国際卓越研究大学法は、学問の自由と大学の自治に何をもたらすのか

設置責任者：河かおる（滋賀県立大学・滋賀支部）

連絡先：YFA80987@nifty.com

設置趣旨：2022年5月、学問の自由と大学の自治に重大な影響を及ぼす二つの法律が、十分な注目も集めぬままに成立してしまった。経済安保法と国際卓越研究大学法である。2020年10月の日本学術会議会員任命拒否には各界から大きな抗議の声が上がったが、両法はその延長上に学問の自由と大学の自治を破壊に導くものであるにもかかわらず、反対の動きが低調だったことは否めない。これらの法律の問題点は何なのか、法律が成立してしまった今、必要な取り組みは何なのかを考えたい。

12月4日 9:30～12:00

座 長：河かおる（滋賀県立大学・滋賀支部）

9:30～9:35 趣旨説明（座長）

9:35～10:05（1）小森田秋夫（東京大学・神奈川大学元教員）：大学の自由論と学問の自由論のバージョンアップのために—「国際卓越研究大学」と「経済安全保障」論を踏まえて

10:05～10:25（2）駒込武（京都大学教授）：産官学連携路線の総決算としての国際卓越

研究大学

10:25~10:40 (3) 野村康秀 (JSA 科学・技術政策委員会・東京支部特許庁分会) : 経済安全保障法による特許出願の非公開 (秘密特許) 導入と科学、技術、学術の変質

10:40~11:00 国際卓越研究大学に申請を検討中とされる大学の動きについて、各大学から報告

11:00~11:05 〈休憩&質問提出タイム〉

11:05~11:55 質疑応答、意見交流

11:55~12:00 まとめ

【E2】分科会:いま、改めて研究者の権利・地位と倫理を考える

設置責任者: 重松公司 (岩手支部)、原田英美子 (滋賀支部)、丹生淳郷 (埼玉支部)

連絡先: kiyoniu03@yahoo.co.jp (丹生)

設置趣旨: 22 総学と 23 総学では、約 40 年ぶりに全面改定された「科学及び科学研究者に関する勧告」(2017)を紹介し、国際的な基準として示された研究者の権利・地位、倫理を我が国の現状と対比して問いかけるとともに、今日的課題である研究倫理、研究不正などの問題を探った。24 総学では、さらにこれらの課題を深めるとともに、学問研究の自由・研究者の権利・倫理、研究不正とその原因・防止対策などについて掘り下げたい。

12月3日 15:45~18:15

座 長: 重松公司・原田英美子

15:45~15:50 コーディネータあいさつ (丹生淳郷)

15:50~16:10 (1) 丹生淳郷 (埼玉支部・科学者の権利問題委員会) : ユネスコ「科学および科学研究者に関する勧告」についての考察

16:10~16:30 (2) 原田英美子 (滋賀県立大学・滋賀支部) : 組織的な研究不正を防ぐための学術体制の構築に向けて

16:30~16:50 (3) 菊地重秋 (東京支部) : 我が国における研究不正等の概観(2013)

16:50~17:00 <休憩>

17:00~17:20 (4) 大村泉*・高橋禮二郎*・重松公司** (*宮城支部、**岩手支部) : YouTube の再生回数が 4,000 回を超えた研究不正シンポジウム(2021.11.29)

17:20~17:40 (5) 三井隆弘 (岩手大学) : 教員養成学部における研究不正の YouTube 公開とその後

17:40~18:00 (6) 大場哲彦***・大村泉*・高橋禮二郎* (***)東北大学、*宮城支部) : 東北大学の総長裁量経費と井上総長時代の役員報酬の異常性

18:00~18:15 全体討論とまとめ

【E3】分科会:持続可能な高等教育を考える

設置責任者: 佐久間英俊 (東京支部)

連絡先 : sakuma@tamacc.chuo-u.ac.jp

設置趣旨 : 現在、日本の高等教育は複雑で多様な問題を抱えている。コロナ禍の影響はもちろんだが、高学費による教育機会の剥奪、非正規雇用者への差別、企業のイノベーション促進への研究教育の動員、軍事研究の促進、大学の営利企業化、学術会議会員の任命拒否問題等々である。政府は法律を改正して自治権を制約し、高等教育機関への介入をいっそう強めているが、これらは多数の市民要求に反し、高等教育を崩壊させるものである。当分科会では持続可能性をテーマに参加者全員で日本の高等教育のあるべき姿と展望を語り合いたい。

11 月 23 日 9:30~12:00

座 長:佐久間英俊(東京支部)

9:30~9:35 座長解題

9:35~10:00(1)佐々木弾(東京大学社会科学研究所教授・東京大学教職員組合副執行委員長):高等教育の政治化とどう向き合うべきかー大学の特権と反権力の二面性

10:00~10:25(2)衣川清子(東京支部常任幹事・大学等教職員組合委員長):非正規教職員も安心して研究・教育できる教育機関へ

10:25~10:50(3)松村比奈子(首都圏大学非常勤講師組合・委員長): 持続可能な高等教育と非正規教職員の雇用更新上限の矛盾

10:50~11:00 <休憩>

11:00~11:25(4)佐久間英俊(東京支部):日本の高等教育の崩壊を食い止めるために

11:25~12:00 全体討論

F 個人の尊厳、ジェンダー平等、多様性の尊重

【F1】分科会：社会的ひきこもり・不登校

設置責任者 : 伊田勝憲 (京都支部)、近藤真理子 (京都支部)

連絡先 : idak@fc.ritsumeai.ac.jp (伊田)

設置趣旨: 2019 年公表の内閣府の調査によると、全国で「ひきこもり」の状態にある中高年(40~64 歳)が 613,000 人と推計され、15~39 歳の 541,000 人を合わせると 100 万人を超える。ゼロトレランスや「成果主義」の中、学校生活に疲弊をし、数字に表れていないが、潜在的にいる学校に毎日通うことが難しい(欠席数が年間 30 日未満)児童生徒や、外出はしているが、人とかかわっていくことに自信がない、難しいという課題を抱えていたり、PDCA サイクルという一元化された作業効率に合わないなど、山積する若者の生きにくさ、社会的参加の難しさを体現している。ひきこもりの就労の保障、あるいは就労自立に向けた財政的な支援を行うことで、経済界に大きな影響を与えることは明らかである。作業効率や社会の当たり前を疑うことから、発達と社会の関係を考えあいたい。

12 月 4 日 13:00~15:30:立命館大学朱雀キャンパスでハイブリッド開催する。

座 長 : 近藤真理子(太成学院大学人間学部)・伊田勝憲(立命館大学教職研究科)

- 13:00～13:10 座長あいさつ:「社会的ひきこもり・不登校」再考
- 13:10～13:30 (1) 下山洋雄(KHJ 青森県支部「さくらの会」):ひきこもり人権宣言の当事者感—ひきこもり人権宣言に関わって感じたこと
- 13:30～13:50 (2) 上坂秀喜(京都市東山区「不登校・ひきこもりを考える親の会」):「社会的ひきこもり・不登校」における社会参加とは～父親の視点から
- 13:50～14:10 (3) 石山佳秀(認定NPO法人フリースクール三重シュール):評価のない関係・居場所—フリースクールの現場から考える社会課題として
- 14:10～14:20 <休憩>
- 14:20～14:40 (4) 中川健史(NPO法人仕事工房ポポロ):ひきこもる人とのつながり、居場所、出番、役割づくり—出番と役割のある地域づくりを中心に
- 14:40～15:00 (5) 武井哲郎(立命館大学経済学部):居場所づくりと公費助成—教育行政学の視点から
- 15:00～15:25 全体討論
- 15:25～15:30 座長まとめ

【F2】分科会:社会的ひきこもり・不登校を語る(当事者、経験者歓迎)

設置責任者: 石田史樹(京都支部)、田中義和(京都支部)

連絡先: fumiki24@gmail.com(石田)

設置趣旨: 日本科学者会議京都支部の第1回市民講座(2021年11月7日)には、初めて、ひきこもりの家族やひきこもりの経験者も含んだ学習会が実現した。家庭内の課題として、社会から目を向けられない支援を必要としている弱者の声を拾い、問題を明らかにしていこうとした学習会は先駆的で実践的であった。そのことがきっかけで、JSAの会員の方からも「実は子どもが(孫が、自身が)ひきこもっている(ひきこもっていた)」と数々の声を聴くことできた。しかし、ひきこもる人たちの実態の把握は進まない、専門的に学び、研究すること以上に家族や当事者から学ぶべきことが多い。そこで本分科会では、当事者、家族に中心적으로ご参加をいただき、フリーに現状や思いなどを話し、考えあう時間を持ちたい。匿名での参加も可とする。お互いの今の困り感など共有をし、当事者による今後の展望を考えあう。

12月4日 15:45～18:15:立命館大学朱雀キャンパスでハイブリッド開催する。

座長: 田中義和(NPO法人なでしこの会)・石田史樹(地域包括センター職員)

15:45～15:50 座長あいさつ

15:50～16:10 (1) 参加者それぞれの自己紹介

16:10～16:20 (2) 森下博(元大阪健康福祉短期大学):ひきこもっていても元気にいきるとは

16:20～18:00 (3) 不登校・ひきこもり 当事者、親、支援者、研究者の立場から 自由に意見交換

18:00～18:15 (4) 藤本文朗(滋賀大学名誉教授):不登校・ひきこもり研究、これからの課題」

【F3】分科会:学校における学びの保障を考える

設置責任者: 近藤真理子(京都支部)

連絡先: marimarinon123@gmail.com

設置趣旨: 不登校・登校拒否の子ども数は減少の兆しがない。学校での集団づくりは同調圧力ではないか、学校では学力は身につかないなど学校への社会からの目は厳しい。学校長のトップダウンの下、成果主義の学校の中で、教員は、学校は子どもにとって楽しい場所であって欲しい、育ち合う関係が作りたくないと砦を守っている。教育学は社会科学で、「こうすればこうなる」という法則性や規則性がなく「科学的」に証明ができるものではない。教育は何をもって成果と言ひ、どの段階の変化を成功とみなせばいいのかがわかりにくい部分も大きい。未来予測が困難なVUCAの時代の学びについて考えあう。

11月26日 9:30～12:00:堺市民共同オフィスでハイブリッド開催する。

座長: 近藤真理子(京都支部)

9:30～9:35 座長あいさつ

9:35～10:15 (1) 前島康男(元東京電機大学):コロナ禍と登校拒否・ひきこもり問題の新しい課題—理論的・実践的課題を深め、ともに取り組みをすすめよう—

10:15～10:45 (2) 小松清生(大和川市民ネットワーク):大和川で学び、育つ子どもたち

10:45～11:15 (3) 奥田雅史(京都支部):不登校・いじめをなくすために学校ができること

11:15～11:45 (4) 大倉恵子(大阪暁光高等学校):心の声に思いを馳せ、ともに生きる

11:45～12:15 (5) 西田喜一(名古屋大学大学院生):地方教育行政にかかわる行政権の強化は、学習・教育になにをもたらすのか

12:15～12:30 研究討議

【F4】分科会:現在の情勢をジェンダー視点から考える

設置責任者: 女性研究者・技術者委員会

連絡先: 笹倉万里子(sasakuramariko@gmail.com)

設置趣旨: 昨今、世界や日本をとりまく情勢は急激に変化している。たとえば、世界ではロシアのウクライナ侵攻が行われ、国際情勢が不安定になるとともに女性や子どもなどの弱者が戦争被害に遭っている。日本に目を向けると、コロナ禍もまだ出口の見えない状況の中、円安が進み、先の生活に不安を覚える状況である。大学情勢に目を向ければ、10兆円ファンドが設置され、国際卓越研究大学制度が始まる中、ますます大学自治を破壊する大学ガバナンスが押し進められようとしている。この分科会では、このようなさまざまな情勢をジェンダー視点から捉え直して討論を行いたい。

12月10日 9:30～12:00

座 長：笹倉万里子（岡山大学）

9：30～9：35 座長あいさつ

9：35～10：05（1）トルガー・エネビシ（大阪支部）：社会の末端から民主的な変化を目指すモンゴルの女性たち

10：05～10：35 報告に対する質疑・議論

10：35～10：45 <休憩>

10：45～11：00（2）元橋利恵（鹿児島短大）：ジェンダー、フェミニズム研究への攻撃に
いかに立ち向かうかーフェミ科研費裁判の支援を通して

11：00～11：15 報告に対する質疑・議論

11：15～11：55 全体討論

11：55～12：00 座長まとめ

G 市民社会その他

【G1】分科会：アメリカの現状と今後を考える

設置責任者：本田浩邦（東京支部）

連絡先：hhonda@dokkyo.ac.jp

設置趣旨：ウクライナ紛争の行方は現在でも見通せない。アメリカ国内ではインフレとポピュリズムの台頭という大きな課題に見舞われている。11月の中間選挙の結果によっては、アメリカが大きく変わる可能性がある。この分科会では、中間選挙の結果を検討し、アメリカの現状、日本への影響などを考える。また来年は、1973年のチリ・クーデターから半世紀を迎える。アメリカの対外関係の特徴を歴史的に捉えるためにも、この事件は今日なお教訓的であるので、この問題を検討する。

12月10日 13：00～15：30

座 長：本田浩邦（獨協大学）

13：00～13：05 座長あいさつ

13：05～13：55（1）宮崎礼二（明海大学）：アメリカ：2022年中間選挙一階級と価値のせめぎあい

13：55～14：05 コメント 増田正人（法政大学）

14：05～14：10 休憩

14：10～14：55（2）本田浩邦（獨協大学）：チリ・クーデター50年ーアメリカの関与を中心に

14：55～15：05 コメント 増田正人

15：05～15：30 全体討論

【G3】分科会：市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望

設置責任者：長野八久（『日本の科学者』編集委員会）

連絡先：jjs2007@jsa.gr.jp

設置趣旨：前半において、編集委員会から『日本の科学者』の現状について報告し、分科会主題に沿った討論を行う。後半において、直近号掲載論文の執筆者をゲストに迎えて、読者会を行う。

12月3日 13:00～15:30

座 長：長野八久（『日本の科学者』第58期編集委員長）

13:00～13:10 分科会進行の説明

第1部：現代市民社会における科学雑誌『日本の科学者』の役割

13:10～13:25 長野八久：『日本の科学者』掲載記事の変遷と編集の状況について

13:25～13:50 第1部主題による討論

13:50～14:00 <休憩>

第2部：『日本の科学者』オンライン読者会

14:00～15:10 2022年10月号、11月号掲載論文執筆者を交え、参加者で講評と特集主題による討論

参加者は『日本の科学者』10月号、11月号を手元に用意してください。なお、『日本の科学者』10月号、11月号の目次は <https://jsa.gr.jp/04pub/0401jjs/2022contents.html> を参照してください。

第3部：『日本の科学者』の新しい展開

15:10～15:30 市民と科学者を結ぶメディア『日本の科学者』に期待される展開について
討論

【G4】分科会：高校生と一緒に考える大阪の未来

設置責任者：今岡良子（大阪支部）、豊中高校能勢分校

連絡先：imaokaryoko2004@yahoo.co.jp

設置趣旨：豊中高校能勢分校の生徒さんたちは、能勢町が帰ってきたい町になるよう、ドイツに行って、シュタットベルケの実態調査をしたり、再生可能エネルギーの調査をしたり、豊中の市民と学習会を重ねたり、さまざまな取り組みをしている。一方で、大阪府市は、博打業を経済回復の起爆剤とするため、人工島の再開発を推進しているが、大阪の最北端で、過疎の認定を受けた能勢町では、地に足をつけた地域づくりの取り組みを高校生が実践している。高校生が実現したい未来に、科学者がどう貢献できるか、意見交換する。

11月21日 15:10～16:40

座 長：大阪大学人文学研究科外国学専攻「アジア言語社会構造論IB」担当、**今岡良子**

11月21日のテーマ「高校生と一緒に考える大阪の未来」の責任者 今岡良子

報告者：大阪府立豊中高校能勢分校生徒、他

報告者がプレゼンテーションをし、この授業を履修する院生（留学生）、市民、JSA会員

でディスカッションを行う。

授業の履修者の確定は、10 月 2 週目となります。（この授業を履修する院生がゼロということにはなりません。）

箕面キャンパス（箕面市新船場）で行われる授業ですが、教室の確定は、9 月末になります。オンラインでの参加も可能です。

11 月 1 日以降、事前資料や動画の配信を行います。希望者には、URL を E メールで送ります。hitsujinowakusei@ymail.ne.jp にご連絡ください。

最新情報は、大阪支部の

twitter <https://twitter.com/JSAosaka>、

facebook <https://www.facebook.com/jsaask>、

ホームページ <https://jsaosaka.jimdofree.com/> でお知らせします。

【G5】分科会：モンゴルにおける言葉と文化の 21 世紀

設置責任者：今岡良子（大阪支部）、チョモルログ（大阪大学人文学研究科院生）

連絡先：imaokaryoko2004@yahoo.co.jp

設置趣旨：中国領内モンゴル自治区では、双語教育という呼び方で、漢語教育を重視するようになっている。一方、モンゴル国では、2025 年から現在の公用文字キリルモンゴル文字（ロシアのキリル文字）に加えて、13 世紀以来の伝統的なモンゴル文字（縦文字）を併記するため、音声入力によって、キリルモンゴル文字と伝統的なモンゴル文字の両方を表示することに成功した。モンゴルにおける言葉と文化の 21 世紀について議論する。

11 月 23 日 19：00～21：00

座 長：チョモルログ

19：00～19：05 座長あいさつ

19：05～19：35 チョモルログ（大阪大学人文科学研究科博士前期 1 年）：モンゴル文字の仕組みの紹介と参加者が自分の名前をモンゴル文字で書くワークショップ

19：35～19：50 Aryuna Batuarbin（ノタック代表（東京神保町の民間語学教室）・モンゴル語教師）：日本におけるモンゴル文字教室とモンゴル書道の実践報告

19：50～20：25 M. Bayarsaikhan（大阪大学人文学研究科准教授、モンゴル国立大学モンゴル言語文化学科教授）：モンゴル国におけるモンゴル文字事情（借題）

20：25～20：55 内田敦之（大阪大学外国語学部非常勤講師）：中国領内モンゴルにおけるモンゴル文字事情（仮）

20：55～21：00 座長まとめ

【G6】分科会：転換期における抵抗運動の論理

設置責任者：本田浩邦（東京支部）

連絡先：hhonda@dokkyo.ac.jp

設置趣旨：現在、世界と日本は戦後成長体制の行き詰まり、グローバリズムの頓挫、ポスト冷戦型国際協調体制の崩壊など重大な岐路にさしかかっている。先行き不透明な時代を見通すうえで、歴史を振り返ることの意義は大きい。本分科会では、第1報告「19世紀社会主義の貧困救済の思想」として、資本主義初期の変革運動における経済と哲学の関連を検討する。第2報告は「中世共同体の変容と一揆の形成」と題し、伊賀国黒田荘の事例分析をつうじて、民衆抵抗運動の論理構造を明らかにする。

12月3日 9:30～12:00

座 長：本田浩邦（獨協大学）

9:30～9:35 座長あいさつ

9:35～10:20（1）本田浩邦（獨協大学）：イギリス初期社会主義における貧困救済思想—トマス・ペインを中心に

10:20～10:30 コメント：小野塚知二（東京大学名誉教授）

10:30～10:35 休憩

10:35～11:20（2）新井孝重（獨協大学名誉教授）：中世共同体の構造と変容—伊賀国黒田荘にみる

11:20～11:30 コメント：小野塚知二

11:30～12:00 全体討論

24 総学予稿集の入手方法

電子媒体（PDF）で発行、各自ダウンロード

- 実行委員会では **24 総学予稿集 PDF 版**を作成し、参加申込いただいた方にはダウンロード方法をご案内します（10月末を予定）。
- 参加者は各自で予稿集PDF版をダウンロードして入手ください。予稿集PDF版ダウンロードは無料です。
- また、予稿集印刷版（予稿冊子）は有料頒布とし、参加登録時に希望者の注文を受付け、24 総学終了後に 24 総学の記録を追加編集して印刷し、2023 年 1 月末ころ送付の予定です。予稿集印刷版の頒価は実費相当で 2,000 円程度の見込みです。



参加費は無料ですが、募金にご協力下さい！

実行委員会は分科会のオンライン開催を 全面的にサポートします

オンライン開催とする 24 総学では、これまでかかっていた様々な費用を削減できるため、参加費は無料とします。オンライン化で費用は削減されますが、通信費、印刷・宣伝費等一定の費用が必要です。これらは J S A 全国の 24 総学予算と皆様からの募金で賄う予定です。同封の振込用紙(振込料不要)で募金にご協力下さい。実行委員会は、要請に応じて分科会のオンライン開催を全面的にサポートします。

(1) Zoom の使用契約、オンライン会議の立ち上げは実行委員会が行います。

分科会開設時間帯に、実行委員会の担当者が待機し、トラブル等に対処します。Zoom の体験会を開設：分科会設置責任者を主な対象として、今回使用するオンラインソフト Zoom の体験会を設けます。分科会設置責任者には運営の手順説明と予行演習の機会の案内を別途送ります。

分科会毎に分科会設置責任者が主体となって分科会の予行演習を行うことを推奨します。予行演習の時期は 11 月 1 日～15 日を目処とし、実行委員会から予行演習日を分科会設置責任者へご案内します。

(2) 参加費無料を活用し、関心のある

非会員も含む様々な人々を気軽に誘って下さい。また、各支部の会議室や会員の研究室・自宅などでネット環境のある場所に複数名が集まれる場合は、複数名で 1 つの P C を共用して参加する方法も考えられます。オンライン会議に不慣れな人も参加しやすく、お薦めです。



今後のスケジュール

- 10 月 10 日 3rd サーキュラー (プログラム発表、参加登録呼びかけ)
- 10 月 15 日～31 日 分科会設置責任者対象の **Zoom 体験会** (希望者)
- 11 月 1 日～15 日 **分科会単位で予行演習**、全体会予行演習
- 10 月 31 日 **予稿集 PDF 版のダウンロード方法を参加申込登録者に連絡。**
これより参加者が各自でダウンロード。
- 11 月 19 日～12 月 11 日 **24 総学(オンライン開催)**
- 2023 年 1 月中旬 予稿集冊子印刷版下完成 (24 総学記録挿入)、入稿
- 1 月下旬 予稿集冊子印刷納品、発送
- 1 月末 実行委員会総括会議ライン開催)

24 総学の成果を『日本の科学者』に

分科会世話人および発表者の皆様

24 総学は 3 本の特別報告と 32 分科会での多彩な研究発表が予定されています。それらの成果を市民に普及し、記録として残してゆくことが重要です。そのために、分科会世話人の皆様、発表者の皆様におかれましては、『日本の科学者』に、24 総学の成果を特集企画あるいはレビュー論文として寄稿することをぜひご検討ください。

皆様からの特集企画提案、投稿をお待ちしております。

『日本の科学者』58 期編集委員長
長野八久
jjs2007@jsa.gr.jp

全体会会場案内

阪大豊中キャンパス アクセス

新大阪から北大阪急行線で千里中央に、大阪モノレールに乗り換え、柴原阪大前下車が便利です。

阪大 HP： 大阪大学>アクセス

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/top>

をご覧ください。

A1 分科会および全体会会場は

阪大 HP： 大阪大学>全学教育推進機構>施設利用・アクセス

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/facilities/>

をご覧ください。

全学教育推進機構 実験棟 1 階の DAICEL STUDIO になります。

学内の食堂売店は、土曜日は昼食の時間帯のみ営業、日曜日は全店舗休み。

阪大生協 HP： 大阪大学生活協同組合>店舗マップ・営業時間

<https://osaka-univ.coop/info/index.html>

をご覧ください。



第 24 回総合学術研究集会実行委員会

(10 月 10 日現在)

実行委員:◎畑明郎(滋賀支部代表幹事)、○河野 仁(研究企画部長)、☆左近拓男(京都支部事務局長)、長野八久(編集委員長)、今岡良子(大阪支部)、小笠原京子(大阪支部)、牧良明(大阪支部)、高作正博(大阪支部)、竹中寛治(京都支部)、近藤真理子(京都支部)、後藤隆雄(兵庫支部)、木村良夫(兵庫支部)、小島彬(滋賀支部事務局長)、溝川悠介(奈良支部)、此松昌彦(和歌山支部)。

◎ : 実行委員長、○ : 副実行委員長、☆ : 事務局長

日本科学者会議 第 24 回総合学術研究集会実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 HYビル (茶州ビル) 9 階

Tel : 03-3812-1472 Fax : 03-3813-2363 e-mail : 24sogaku@jsa.gr.jp